

段 階 確 認 一 覧

一般：一般監督
重点：重点監督
1/3

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度	
				通常工事	ISO9001活用工事
指定仮設工		設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	1回/1工事	—
河川土工 (掘削工) 海岸土工 (掘削工) 砂防土工 (掘削工) 道路土工 (掘削工)		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	1回/土(岩)質の変化毎
道路土工 路床盛土工 舗装工 (下層路盤)		フルフローリング実施時	フルフローリング実施状況	1回/1工事	—
表層安定処理工	表層混合処理 路床安定処理	処理完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/100m	— 重点:1回/100m
	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/100m	— 重点:1回/100m
	サンドマット	処理完了時	使用材料、幅、延長、施工厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/100m	— 重点:1回/100m
パーカドレン工	サンドドレン 袋詰式サンドドレン ペーパードレン	施工時	使用材料、打込長さ	一般:1回/200本 重点:1回/100本	— 重点:1回/100本
		施工完了時	施工位置、杭径	一般:1回/200本 重点:1回/100本	— 重点:1回/100本
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時	使用材料、打込長さ	一般:1回/200本 重点:1回/100本	— 重点:1回/100本
		施工完了時	基準高、施工位置、杭径	一般:1回/200本 重点:1回/100本	— 重点:1回/100本
固結工	粉体噴射攪拌	施工時	使用材料、深度	一般:1回/200本 重点:1回/100本	— 重点:1回/100本
	高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイル	施工完了時	基準高、位置・間隔、杭径	一般:1回/200本 重点:1回/100本	— 重点:1回/100本
	薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	一般:1回/20本 重点:1回/10本	— 重点:1回/10本
矢板工 (仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+ 一般:1回/150枚 重点:1回/100枚	試験矢板 — 重点:1回/100枚
		打込完了時	基準高、変位	試験矢板+ 一般:1回/75本 重点:1回/50本	試験矢板 — 重点:1回/50本
	鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+ 一般:1回/75本 重点:1回/50本	試験矢板 — 重点:1回/50本
既製杭工	既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	試験杭+ 一般:1回/10本 重点:1回/5本	試験杭 — 重点:1回/5本

【凡例】「—」: 請負者の検査記録を適切な時期に、サンプリングにより確認する。

ただし、設計変更に関する確認が必要となった場合は、通常の「段階確認」を行うものとする。

* 太枠内は土木工事共通仕様書 1-1-6 表1-1段階確認一覧表に示されているもので、請負者はここに示す確認時期において、段階確認を受けるよう定められている。

種別	細別	確認期	確認項目	確認の頻度	
				通常工事	ISO9001活用工事
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込完了時(打込杭)	基準高、偏心量	試験杭＋ 一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	試験杭 —— 重点:1回/5本
		掘削完了時(中掘杭)	掘削長さ、杭の先端土質		
		施工完了時(中掘杭)	基準高、偏心量	一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	—— 重点:1回/5本
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況		
場所打杭工	リバース杭 ホールケーシング杭 アースドリル杭 大口徑杭	掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	試験杭＋ 一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	試験杭 —— 重点:1回/5本
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比	一般:30%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物	一般:15%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	試験杭＋ 一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	試験杭 —— 重点:1回/5本
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	—— 重点:1回/5本
深礎工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	1回/土(岩)質の変化毎
		掘削完了時	長さ、支持地盤	一般:1回/3本 重点:全数	一般:1回/3本 重点:全数
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比	1回/1本	1回/1本
		施工完了時	基準高、偏心量、径	一般:1回/3本 重点:全数	—— 重点:全数
		グラウト注入時	使用材料、使用量	一般:1回/3本 重点:全数	—— 重点:全数
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄沓据え付け完了時	使用材料、施工位置	1回/1構造物	——
		本体設置前(オープンケーソン)	支持層		1回/1構造物
		掘削完了時(ニューマチックケーソン)			
		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	1回/土(岩)質の変化毎
鋼管井筒基礎工		打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力	試験杭＋ 一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	試験杭 —— 重点:1回/5本
		打込完了時	基準高、偏心量	一般:1回/10本 重点:1回/ 5本	—— 重点:1回/5本
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況		
置換工(重要構造物)		掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ、支持地盤	1回/1構造物	1回/1構造物
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線	1回/1法線
砂防ダム		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線	1回/1法線

種別	細別	確認期	確認項目	確認の頻度	
				通常工事	ISO9001活用工事
護岸工	法覆工 (覆土施工がある場合)	覆土前	設計図書との対 比 (不可視部分の 出来形)	1回/1工事	—
	基礎工、 根固工	設置完了時	設計図書との対 比 (不可視部分の 出来形)	1回/1工事	—
重要構造物 函渠工 (樋門・樋管を含 む) 躯体工(橋台) RC躯体工 (橋脚) 橋脚フーチング工 RC擁壁 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した 時	土(岩)質、変 化位置	1回/土(岩)質の変化毎	1回/土(岩)質の変化毎
		床堀掘削完了時	支持地盤(直 接基礎)	1回/1構造物	1回/1構造物
		鉄筋組立て完了時	使用材料、 設計図書との 対比	一般:30%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物	一般:15%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物
		埋戻し前	設計図書との 対比 (不可視部分 の出来形)	1回/1構造物	—
躯体工 RC躯体工		沓座の位置決定時	沓座の位置	1回/1構造物	—
床版工		鉄筋組立て完了時	使用材料、 設計図書との 対比	一般:30%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物	一般:15%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物
鋼橋		仮組立て完了時(仮 組立て が省略となる場合を 除く)	キャンパー、 寸法等	一般:— 重点:1回/1構造物	— 重点:1回/1構造物
ポストテンションT (I)桁製作工 プレキャストブロック 桁組立工 プレフォーム桁製作工 PCホースラグ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製 作工 PC押出し箱桁 製作工 床版・横組工		プレストレス導入完了 時	設計図書との 対比	一般:5%程度/総ケーブル数 重点:10%程度/総ケーブル 数	— 重点:10%程度/総ケーブル数
		横締め作業完了時	設計図書との 対比	一般:10%程度/総ケーブル 数 重点20%程度/総ケーブル数	— 重点20%程度/総ケーブル数
		プレストレス導入完了 時	設計図書との 対比	一般:30%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物	一般:15%程度/1構造物 重点:60%程度/1構造物
トンネル掘 削工		土(岩)質の変化した 時	土(岩)質、変 化位置	1回/土(岩)質の変化毎	1回/土(岩)質の変化毎
		支保工完了時 (支保工変更毎)	吹き付けコンクリート 厚、 ロックボルト打ち込み 本数及び長さ	1回/支保工変更毎	—
トンネル覆 工		コンクリート打設前	巻立空間	一般:1回/構造の変化毎 重点:3打設毎又は1回/ 構造の変化毎の 頻度の多い方 ※重点監督:地山等級が D,Eのもの 一般監督:重点監督以外	一般:1回/構造の変化毎 重点:3打設毎又は1回/構 造の変化毎の 頻度の多い方 ※重点監督:地山等級が D,Eのもの 一般監督:重点監督以外
		コンクリート打設後	出来形寸法	1回/200m以上臨場 により確認	1回/200m以上臨場 により確認
トンネルインバート 工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対 比	1回/構造の変化毎	1回/構造の変化毎
ダム工	工事ごと別途定める。		工事ごと別途定める。		

* 工事に応じて必要な工種を適用するものとする。